令和５年度　奈良県立高田高等学校　学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和５年度（中期計画２年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	「自彊・和敬・創造」の校訓のもと、生徒各自が進路実現を果たし、地域社会を創生・牽引する人材や、教員として奈良県教育を支える人材の育成を目指します。
年度重点目標	(探究)・「総合的な探究の時間」の充実に向けた計画案の策定及び実践 (確かな学力)・タブレット端末や電子機器等を有効に活用し、主体的・対話的な授業の実践 (協働)・生徒会活動や委員会活動を中心に、生徒主体の学校行事の運営 (社会貢献)・社会貢献活動を推進する地域振興団体等と連携した各種行事への参加及び立案 (教育アンビシャスコース)・市内の小学校等と連携し、小学校体験実習の実施

1　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ・向上心や探究心、知的好奇心があり、何事にも挑戦できる生徒 ・将来の目標に向けて、学習や部活動に取り組む意欲をもつ生徒 ・ルールやマナーを遵守し、互いに尊重しながら他者と協力することのできる生徒 ・地域や社会に関心をもち、地域社会の課題解決に取り組む意欲をもつ生徒 ・教員を志し、教育について自ら考え、学ぶ意欲をもつ生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	本校では、確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身の育成を目指すとともに、人間関係構築力や社会参加意識を養うために以下の教育を行います。 探　　究　・体験学習や発表の場を増やし、「総合的な探究の時間」を充実させます。 ・協働的な学びによって、コミュニケーション能力や情報発信能力を育成します。 ・教科の枠にとらわれない横断的な学習を通して、主体的、創造的に取り組む態度を育成します。 確かな学力　・タブレット端末や電子機器等を有効に活用し、主体的・対話的な授業を実践します。 ・ポートフォリオの活用により、客観的な自己評価を行い、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出します。 ・多様な進路実現を図るため、通常の授業に加え、実力養成講座を充実させるとともに、外部講師を招へいし、講演会や説明会を実施します。 協　　働　・部活動や課外活動に、積極的に取り組むことのできる環境を作ります。 ・人権意識を高める活動を行い、多様性の尊重される学校づくりを実践します。 ・生徒会活動や委員会活動を中心に、生徒主体の学校行事を進めます。 社会貢献　・学校行事を通して、他者との関わりの中で、自己有用感を育成します。 ・ボランティア活動等を通して、主体的に社会に参画する意識を高め、社会貢献の精神を育成します。 ・地域振興団体との交流を深め、積極的に各種行事に参加する機会を設けます。 教育アンビシャスコース ・市内の小学校等と連携し、小学校体験実習を実施します。 ・ディベートや集団討論を通して、教員として必要なコミュニケーション能力を高めます。 ・連携大学等から講師を招へいし、教育について専門的学びを深めます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	本校では、以下の資質・能力を身に付けた生徒に卒業を認定します。 ・探究心をもって課題を設定し、それを解決し論理的に表現することができる。　（⇒探　究） ・身に付けた幅広い知識と確かな学力を卒業後も生かし、自己の将来を開拓・実現できる。　（⇒確かな学力） ・他者を尊重し、社会の中核を担う存在として多様な人々と協働することができる。　（⇒協　働） ・社会の一員としての自覚をもち、地域の人々に愛され、郷土の発展に貢献できる。　（⇒社会貢献）

2　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（Ａ）	計画期間における具体的目標（Ｂ）	令和５年度末の目標値等（Ｃ）	令和５年度末の状況（Ｄ）	自己評価（Ｅ）	学校関係者評価（Ｆ）	改善方策(案)
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生徒の体力向上	新体力テストの総合判定Ａ評価が、全体の15%以上。	新体力テストの総合判定B評価が、全体の35%以上にする。	具体的目標(Ｂ)を達成できたのは、学校全体では男子のみで、女子は達成できなかった。また、具体的目標(Ｃ)は男女とも惜しくも達成できなかったが、学年男女では２年男子42.0%、３年男子35.8%であった。	目標達成には残念ながらあと少し、不十分であった。	○素晴らしい結果だと思います。 （Ｃ）は「新体力テストの総合判定B評価が」ではなく「新体力テストの総合判定B評価以上が」とするべきでは！？ ○（Ｂ）の目標達成は素晴らしいです。新たな目標へチャレンジですね。（Ｃ）の2年男子はなぜ優れているのか、全体的なUPが楽しみです。 ○目標値に近づけるよう取組を進めてください。	体育の授業はもとより、今後は部活動等においても、「新体力テストの総合判定の向上」について更に取り組み、向上を図る。
	授業や体育活動における生徒の主体的な取組（企画・運営等）	授業アンケートで「意欲的に取り組んでいる」(スポーツが好き)と肯定的に回答する生徒85%以上。	授業アンケートで「意欲的に取り組んでいる」(スポーツが好き)における肯定的な回答を80%以上にする。	具体的目標(Ｂ)(C)は、学校全体では88.3%で目標を達成することができた。楽しみながら体育の授業等に参加する事ができた。	目標達成はできた。	○素晴らしい結果であると思います。 ○球技大会や体育大会など生徒たちが意欲的に取り組んでいるように見受けられてうれしく思いました。 ○素晴らしいと思います。 ○今後も引き続き継続に努めてください。 ○意欲的に取り組んでいる以外の結果はどのようになっていますか。	ほとんどの生徒(97%以上)が「体力は必要と思う」た回答したことから、更に、体力の向上とスポーツ好きへの発展(意欲的に取り組む姿勢)に、発展的に取り組む。
	自己肯定感の醸成	「こころと生活等に関するアンケート」の肯定的な回答が80%以上。	個人面談等を通じて、生徒の個性の把握と能力の伸長に努めることで、「こころと生活等に関するアンケート」における肯定的な回答を70%以上にする。	「こころと生活等に関するアンケート」において、自己評価や自己受容についての項目について肯定的な回答をした生徒は88.6%であった。	個人面談等を通じて、生徒個々の特性を把握するとともに、自分の強みの発見。ポジティブな思考の醸成。相談しやすい関係や環境づくり。などへの継続的な取組による結果であると考える。	○先生方の努力により良い教育環境が保たれているということが分かります。感謝いたします。 ○高田高校の先生方は皆さん明るくよい意味で生徒との距離も近いように感じるので安心しています。 ○登校をしぶり、不登校傾向の生徒に対してどのような取組をしておられるのか知りたいです。 ○生徒の個性の把握に努め、肯定的な回答目標をクリアするよう努めてください。	すべての学校生活において、生徒の個性把握に全職員で努め、個々に適した声かけや指導ができるように取り組む。
	授業改善による主体的・対話的授業の向上	学校改善アンケートで「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」の質問に対し、肯定的な回答が85%以上。	研究授業等を通して教員間の研修を深め、「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」の質問に対し、肯定的な回答を80%以上にする。	学校改善アンケートで「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」の質問に対し、肯定的な回答が昨年度と同様の78%であった。	年間5回の授業研究の週で、多くの先生方が電子黒板、BYODの活用を積極的に行っており、アクティブラーニングなどの多様な授業展開をしていただいていた。また、それを多くの先生方が熱心に見学いただき、授業後の意見交換等も行われていた。	○大変忙しい合間を縫って授業内容の向上に取り組んでいただいているようで頭が下がります。 ○小学校の先生は週25～29ｈの持ち時間で年６回の研究授業、人権発表授業、ICT研修等に取り組んでいます。楽しくて当たり前、わかって当たり前の授業研究、教科研究をめざしてください。 ○研究授業は学力向上に役立つものと考えられます。各教員任せにせず、一定のルールの下行うことが必要であると考えます。 ○適切な授業とはどのような授業であるかを具体的に示す必要があるのではないでしょうか。受け取る先生方によっては適切な授業の尺度はそれぞれだと思います。	見学に関しては各教員に任せており、回数等は個人によって差がある。来年度は推奨する回数を設定していきたい。また、研究授業の時間割を早く出すことにより、より見学しやすい環境を整えていきたい。主体的対話的で深い学びにつながるアクティブラーニングを取り入れた授業や多種多様な評価方法についても機会をつくり示す。
	学習に対する興味・関心の醸成	高大教育連携大学の講師による出張講義内容に関する生徒アンケートにおいて、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上。	連携大学講師による「教育」に関する出張講義を実施することで、「学習に対する興味・関心が高まったか」における肯定的な回答を85%以上にする。	「教育」のさまざまな分野について、連携大学講師による専門的な講義を実施した結果、「学習に関する興味・関心が高まった」と肯定的な回答をした生徒の割合は100%であった。	出張講義を実施したことで、生徒の視野を広げ、多角的に物事を考える力を養うことができた。また、進学後の学びにつながる学習ができたと考える。	○取組は素晴らしいものだと思います。回答結果が楽しみです。 ○小学校体験実習にあたり、事前指導をしていることはとても心強いことだと思います。 ○出張講義を継続し、今後も引き続き、「教育」への学びを深めてください。	今後も「教育」に関する学びにつながる、連携大学講師による専門的な出張講義を実施する。

２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	ＩＣＴ教育の推進	各科目の授業における各学期ごとのＩＣＴ機器の活用率100%。	職員向けICT活用研修を年間５回以上行い、授業アンケートの質問項目「ICT機器を活用することで積極的に授業に参加できているか」における肯定的な回答を75%以上にする。	Googleサービスの活用、教科・ＨＲ・学年等からの連絡や資料・情報共有等にＩＣＴを利用した。電子黒板、出席停止生徒対応のオンライン授業、ＰＣを活用した小テストの実施等、活用の幅は広がった。授業アンケートで「ICT機器を活用することで積極的に授業に参加できているか」に対する肯定的な回答は、83.4%であった。	教材は少しずつ充実し始めているものの、生徒端末を活用しての教材作成にはまだ課題も多い。さらなる教員の授業力向上を目指し、研修を重ねる必要がある。教員側のＩＣＴ教育への苦手意識も少しずつ薄れつつあり、ＩＣＴ活用経験や研修の成果が出始めていると考える。	○通常業務等で忙しい中、教員への研修回数は目標に達しており素晴らしい結果であると評価できる。 ○３学期実施予定の授業の受け手側の回答が目標以上の回答であることを期待したい。 ○こちらもまだ多忙の中、先生方も向上心を持って取り組んでいただき感謝です。 ○研修の回数が目標値をクリアしていることは評価できると考えます。	さらなる研修会の企画、他校の実践例の情報収集と教員へのフィードバックを増やし、ＩＣＴを活用した授業が展開しやすい環境作りを目指す。
	学校における働き方改革	超過勤務時間が月45時間以上となる教職員の割合を０%とする。	超過勤務時間が月45時間以上となる教職員の割合を５%以下とする。	4月から１月までの集計結果から今年度の目標値を達成できたのはわずか3ヶ月であった。	超過勤務について月に2度集計を行い、管理職で情報共有を行うともに、先生方への声かけを行ってきたが、なかなか結果に結びつかない現状がある。抜本的な改革が必要と感じられる。	○一部の教員にのみ業務が集中するのは好ましくはないが、時期や状況によりやむを得ない場合もあると考える。業務分担の適正化や業務の精選等の実施に取り組まれることを期待します。 ○社会問題となっていますね。目標を達成するために申告せずのサービス残業にならないでいただきたいです。 ○部活動等の委託等はどのように進められていますか。 ○働き方改革を引く続き進めることで超過勤務時間の低減に努めてください。	部活動の外部委託は高校では進んでいない現状がある。外部人材を活用した部活動指導はいくつかの部で進めている。 業務内容そのものの抜本的な見直しを進めるとともに、勤務終了時刻を早め、より一層先生方の意識改革に取り組む必要がある。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	未来の夢と進路目標の設定	３学期末における生徒の進路目標が「未定」である生徒の割合を、１年生で10%以下、２年生で５%以下。	キャリアや大学入試をテーマに生徒が学びを深められるよう進路HRを進める。3学期末時点で進路目標が「未定」である生徒の割合を、1年生で15%以下、2年生で10%以下にする。	各学年の進路指導計画に基づくＨＲ案を学年研修で提示し、担任の先生に実施していただいた。 ３学期の進路アンケートでは、進路目標が「未定」の生徒は１年生7.9%、2年生0.8%であった。	担任の先生方のご指導のおかげで、進路目標が「未定」の生徒の割合が減少傾向にある。キャリアや学問への意識付けができていると感じる。	○３学期に実施予定のアンケート結果に注目したいです。 ○将来の夢が明確でないと逆算してそもそもの計画を立てることができないので何かしら見いだしてほしいですね。 ○キャリア教育を進めることで、生徒の将来の進路目標の「未定」の割合を「０」に近づけてください。	進路HRの展開において、個人端末を利用して、将来について生徒が学びを深め、情報収集できるような環境作りにも努める。
	教員を目指す生徒の実習への参加	教育アンビシャスコースの小学校体験実習の生徒満足度を85%以上。	小学校体験実習に主体的に取り組み、教職についての学びを深める。実習における生徒満足度を85%以上にする。	生徒は目標を決めて実習に臨み、先生方と児童との様子を注視し、大変意欲的に実習に取り組んだ。実習における生徒の満足度は100%であった。	積極的な実習への取組や実習後の反省点の共有、活発な意見交換などを通して、将来につながる大きな学びになったと考えている。	○素晴らしい取組であると思います。 ○実習は出向く生徒も受け入れる生徒も大変記憶に残り楽しい期間なので精一杯頑張ってほしいです。 ○引く続き取組の推進に努めてください。	今後も市内の小学校の協力を得て、体験実習を実施する。また、中学校との連携も考える。
	オープンキャンパスやインターンシップへの参加	夏期休業中の進路課題としてオープンキャンパスやインターンシップへの参加を促し、報告書で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上。	１，２年生全員に、夏期休業中を中心にオープンキャンパスやインターンシップへ参加することを指導する。活動における満足度を80%以上にする。	夏期休業中の進路課題については、１，２年生の95%が「満足」と回答している。3学期には、22の学問分野を学べる進路セミナーを放課後に実施し、１，２年生で合計669名の生徒が参加した。	進路課題の満足度は高い。生徒が進路先をしっかり見定めることができるよう、今後も多様な選択肢を示したい。	○「満足」と回答した生徒が95%あったのはたいへん素晴らしいと思います。日常の先生方のご指導の賜物ではないでしょうか。 ○達成率が高いですね。オープンキャンパスでは目標意識も向上するのでどんどん斡旋していってください。 ○引く続き取組の推進に努めてください。	夏期休業中の進路課題、3学期の進路セミナーの内容をさらに工夫し、将来の進路を決定する一助にする。
	キャリア教育に向けた啓発活動の促進	生徒（進路委員）が作成する、進路ニューズレター『進路のすゝめ』を年３回発行。	各科目の学習方法や類型・科目選択のアドバイス等を主題にする進路ニューズレター『進路のすゝめ』を、進路委員が年間3回作成できるよう計画する。	3学期には、大学入学共通テストを受験した3年生の「受験報告書」から、反省点や１，２年生へのアドバイスを抜粋して編集し、発行した。	今年度も3回発行できた。進路委員が記事を分担して発行するニューズレターは情報発信力の育成につながる。今後も時勢に応じたトピックで最新の情報を発信できるよう計画したい。	○すばらしい取組だと思います。また、受験を終えた３年生から１，２年生へのアドバイスも伝えることができればと思います。 ○目標値はクリアできそうなので今後も継続してください。	生徒による生徒のためのニューズレター「進路のすゝめ」は、生徒のキャリア形成にも役立つ。HRでもっと活用してもらえるよう工夫する。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	生徒会や部活動等による、地元の小・中学校、公共機関やＮＰＯ法人等との連携	地元公共団体等から依頼される社会貢献活動等に積極的に参加するとともに、生徒が主体的に参画・運営する各連携事業や行事を年間８回以上計画。	生徒会執行部とボランティア委員会を中心に、他校との連携事業と社会貢献活動を年間５回以上計画する。	７月に高田市PTA協議会主催の「夢街道」に参加。10月は高田市社会福祉協議会からの依頼を受け、高田市駅前での「赤い羽根共同募金」に協力し、その後一週間校内でも共同募金活動を行った。1月にはインドネシアからの高校生との交流を行った。更に、能登半島地震救援募金を３日間実施した。	社会貢献活動として各種募金５回、他校との交流２回、ボランティア委員と協力しての挨拶運動・募金など、ほぼ当初の目標を達成できた。来年度はもう少し社会貢献活動と交流活動を増やしていきたい。	○社会貢献活動を通しての社会参加は地域を構成する住民としての意識向上に結び付く非常に大きな行動だと思います。学生時代に公共性というものへ関心をもつことで社会適応力が身につくことと考えます。 ○ボランティア委員会の存在を初めて知りました。地元中学校との交流で更なる受験希望者も増えることだと思います。 ○素敵な取組だと思います。より発展することを望みます。 ○今後も引く続き交流活動を進めてください。	今後も各種募金活動と他の高校や地元中学校などとの交流を進める。
	コミュニティスクールの運営の充実	年間３回の学校運営協議会の開催。	年間３回の学校運営協議会を開催する。	予定通り、３回実施することができた。（第1回7月、第2回11月、第3回２月に実施、第2回は書面開催）	書面開催で各委員の方々から貴重なご意見をいただき、有意義な協議会であった。	○教頭先生をはじめ担当の先生方におかれましては、お忙しい中、協議会の準備並びに開催いただきありがとうございます。次回も参加させていただきます。 ○初めて参加させていただき、各先生方が学校生活のことを思い、取り組んでいただく様子に感銘を受けました。 ○今後も実施を継続し、地域との連携に努めてください。 ○どのような議論やどのような意見がでているかを具体的に書いた方がいいと思います。	来年度は、第1回から委員の方々から幅広いご意見をいただく機会を設定する。
	郷土理解を深める学習への取組	「総合的な探究の時間」の取組をとおして、生徒の地域理解や郷土愛が深まったという回答率80%以上。	「総合的な探究の時間」において県内の外部講師を招聘し、フィールドワークに行くことによって生徒の地域理解や郷土愛が深まったという回答率を80%以上にする。	「総合的な探究の時間」において９分野共に外部講師招聘を最低２回行い、地域との関わりを持つことができた。特に“地域創生”分野においては、地域の企業や市役所とも連携を取りながら取組を深めることができた。	１・２学期・夏期休業中の外部講師招聘やフィールドワーク活動は学校として設定したものに関しては達成することができた。 生徒達自身の研究の中で、自発的に地域と関わり行動する態度はあまり見られない。その態度を育成することが課題である。	○生徒の回答が楽しみですね。 ○様々なテーマで見聞を広げることができますね。奈良を知ることは大切だと思います。 ○学校は地域の中に存在していることを今後も念頭に入れ、地域理解と郷土愛を深めてください。	令和６年度より１年生も探究活動を導入し、充実を図ることで生徒の意欲を高める指導を行うよう工夫する。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	生徒による人権意識啓発の取組	生徒が作成する人権啓発『ニューズレター』を年間６回発行。	生徒が作成する人権啓発『ニューズレター』を年間７回発行、および生徒の放送による人権啓発アピールを学期に１回以上。	人権啓発『ニューズレター』を年間６回発行し、全校生徒に配布した。また、ヒューマンハート委員による啓発活動は、校内放送アピールという形式で、１学期と３学期の計２回実施した。	ヒューマンハート委員による作成は目標達成できた。また配布時における生徒によるアピールについても３学期に１回実施できた。	○生徒が作成するものは同世代の生徒に受け入れやすいと思います。社会問題を身近に感じ考えを深めることは素晴らしいことだと思います。 ○引き続き目標値をクリアするよう努めてください。	人権啓発アピールが２回と、やや少なかった。またアピールの方法も放送以外の形式を考える必要がある。次年度以降は、ヒューマンハート委員の意見を参考に啓発方法を考える。
	生徒の人権意識高揚に向けた取組	年度末アンケートで「社会の様々な差別について、それをなくす言動を積極的にしていこうと思う。」と回答する生徒の割合を85%以上。	年度末アンケートで「社会の様々な差別について、それをなくす言動を積極的にしていこうと思う。」と回答する生徒の割合を90%以上。	第１・2学年共に年間１回、学年別人権教育講演会を開催した。講演会視聴後、感想文を記すことにより自身の人権意識を確認させた。さらに、人権学習ホームルームの導入として活用させた。	「３年間の人権学習アンケート」において、人権学習ホームルームや講演会をとおして、学び、考えたことを活かし、社会の様々な差別について、それをなくす言動を積極的にしていこうと思う」と回答した生徒の割合は、昨年度よりやや増加したものの、83.8%であり、本年度の目標は達成できなかった。	○人権教育講演会に参加しましたが、午後の眠い時間帯でしたが性的マイノリティの回はとても前向きに興味をもって聞いていましたね。 ○今後も引き続き、人権について考える時間を設けることにより目標値をクリアするよう努めてください。	今後も、「当事者の思い」を知ることができる内容に主眼を置いた講演会が開催できるよう、講演会の形式や講師依頼等を考える。
	いじめのない学校づくり	いじめアンケートで「いじめられている」の回答に対する解消率85%以上。	アンケートや面談等により、早期発見・早期解消に努める。解消率を80%以上にする。	今年度、２件のいじめ事象を確認。いずれも迅速に対応することができ、解決・経過観察に至っている。	日頃からの個人面談等を通じて、生徒との人間関係が醸成されていることが、問題のスムーズな解決のつながっていくと考える。	○いじめ等の早期解決は先生方のご努力のおかげであると感じています。 ○内容にもよりますが「いじめ」と言いますが、立派な犯罪が成立するものもあります。楽しいはずの高校生活が暗くなることのないように皆で気をつける仕組みが大事ですね。 ○SNS等での被害を止めるために具体的取組はどのようにされているのかを知りたいです。 ○今後も引き続きいじめの早期発見、早期解消に努めてください。 ○命にかかわることなので目標値を100%にした方がいいのではないでしょうか。	いじめは起こりうるもの。という原点を忘れず、日常の観察を行うこと。連絡、連携を密にすること。を再認識し、学校全体で取り組む。

	特別支援教育の推進	支援を要する生徒の授業アンケートにおいて、「先生の説明や指示、問いかけ、板書などがわかりやすかった」と回答した生徒が85%以上。	授業において指導・支援の工夫を図ることにより、支援を要する生徒の授業アンケートにおいて、「先生の説明や指示、問いかけ、板書などがわかりやすかった」と回答した生徒が80%以上にする。	支援を要する生徒の授業アンケート結果（1・2学期）について、肯定的な回答をした生徒は86.4%であった。	1学期に比べ、値が低くなっている。その理由として生徒の特性によるものについては、教科担当へも合理的配慮をお願いし、本人が学習に取り組みやすい環境の整備に努めた。今後も個別での面談を通し、学校生活における困り感に対処できるよう支援を行っていく。	○先生方の努力と気持ちが生徒に伝わっている結果だと思います。今後も継続して支援等をお願いしたいです。 ○先生方の惜しみない愛情と努力が数字に表れているのだと思います。これからも生徒のためにどうぞよろしくお願いします。 ○肯定的な回答が目標値を大きく上回っています。引き続き100%に向け務めてください。	支援を要する生徒は今後、増加傾向にあるように感じているため、個別の面談を通し本人の声を聞き、個々の特性等についてしっかりと把握するとともに、学校全体で連携を図ることで強固な支援体制を構築する。

3　評価結果の分析、今後の改善方策等

各分掌等で目標を達成するために、努力していただいている。改善すべき点については、学校運営協議会委員のご意見を参考にしていきたい。
学校満足度「本校に入学してよかった」のアンケート項目に、９５%の生徒が肯定的な回答を得た。